

平成29年度 南アルプス市立落合小学校 後前期自己評価書	平成30年1月10日
学校長 笹本 仁	記述者 教頭 矢崎 健
学校教育目標 「心豊かで たくましく よく学ぶ児童の育成」	
◇本年度の取組重点	
<p>①どの子にも面白く分かりやすい授業をめざし、基礎基本の習得とそれらを活用して「思考力・判断力・表現力」の育成を図る（特にすべての学習の基盤となる読み・書き・計算力の確実な定着を図る）。</p> <p>②学校生活全般（特に授業の中）にも生徒指導を取り入れることで、いじめ・不登校のない学級・学校を目指す。</p> <p>③インクルーシブ教育システムの理念をふまえ、特別支援教育の推進に向け、職員の校内支援体制の一層の工夫・充実を図る。また、ノーマライゼーションの考えを育むよう努める。</p> <p>④「落合小生活のきまり」「落合小学習のきまり」を学校生活の基に据える。また、児童会が作った「落合小こびっとルール」に全員で積極的に取り組む。</p> <p>⑤読書・辞書利用・家庭学習を包括した学習習慣の育成を図る。特に、明快な「学習の仕方」を身につけさせ、学習に主体的に取り組む力を高める。</p> <p>⑥体育・食育を重視し、生涯を通じて健康な生活を送るために必要な運動習慣、食習慣、衛生習慣を育成する。</p> <p>⑦児童会活動を通して、より良い学校生活づくりのために協力して諸問題を解決していく力を育成する。</p> <p>⑧「地域ふれあい道徳事業」「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」「いじめ・不登校未然防止推進事業」に積極的に取り組み、場こふさわしい行動・あいさつができるようにする。</p> <p>⑨安全教育・安全管理を計画的に行い、「自分の身は自分で守る」知恵と力を育てる。</p> <p>⑩情報を積極的に発信・受信し、家庭・地域・関係機関との連携を深め、より「開かれた学校づくり」を推進する。</p>	
I 全体評価	
<p>今年度は、「本年度の取組重点」を意識して評価項目の文言を変更した昨年度の経過を受け、「本年度の取組重点」を意識して評価を行った。自己評価は、【A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない】の4段階評価で実施した。</p> <p>本年度第2回の自己評価結果は、総合的に見ると多くの質問内容で、肯定的な回答が大勢を占め、全ての項目で、前期に比べて評価が高くなっている。（ ）内は前期</p> <p>「学校教育目標」 ①～④ A・B：100%（90%）</p> <p>「学校経営・組織」 ①～⑥ A・B：96.4%（90%）</p> <p>「学習指導・生徒指導」 ①～⑥ A・B：100%（98%）</p> <p>「地域との連携」 ①～⑤ A・B：100%（98%）</p> <p>「学校の特色」 ①～③ A・B：100%（94%）となっている。</p>	
II 各項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
1 「学校教育目標について」	
達成状況	<p>・全ての項が「A：そう思う」または「B：ややそう思う」という肯定的評価であった。</p> <p>「知徳体のバランスが良い育成、特支教育の充実、心の教育（思いやりや規範意識の向上）等、意識ができてきた。」</p> <p>「健康（う歯、体力向上）などについてはもっと取り組みたい。」</p> <p>「④については、行事の反省など、その都度行なっていて良い。」</p> <p>「職員会で補い合っているが、融和に欠けるというか、温かさが欲しいと思います。」</p>

改善策	<p>・知徳体を重視した本校の学校教育目標や、スクールプランで重点課題としてきた特別支援教育への取組が成果を上げてきていると言える。反省にもあるが、行事等への反省を必ず行うようにして、次に生かすよう努力しているためと考えられる。全体的に見ると、子どもたちも大分落ち着いてきている。職員同士での補い合いはよくできているが、温かさに欠ける部分を感じる声があった。職員がさらに打ち解けあうことが、職場のチーム力を高めることになり、それがひいては子どもたちへの教育効果を高めることにつながるので、意識していきたい。</p>
2	「学校経営・組織について」
達成状況	<p>・①②の項で、C「ややそう思わない」という評価があった。</p> <p>①「学校経営構想《グランドデザイン》に基づき、各校務分掌が機能している。」について、C評価2名。</p> <p>②「相談、連絡、報告が遺漏なく確実に行われている。」について、C評価2名。</p> <p>「保護者からの要望意見が教務へ伝わっていないことが一部にあった。今後気を付けなければならない。」</p> <p>「どこの世界（社会）でも報連相は大切である。自分も含め、落ち度なく心がけていきたい。」</p> <p>「職員や児童の防災意識が向上してきていると感じた。地域の連携は今後の課題である」</p> <p>「校務分掌の内容把握をしておらず、他の教師に負担がかかっている（迷惑をかけている）場面を時々目にした。与えられた分掌は責任をもって内容確認を行い実行すべきだと思う。」</p> <p>「会議中は手を止め、内容をしっかり検討するようにしたい。自分の提案（アンケート依頼を含む）等ばかりでなく、他教員の提案もしっかり受け止め確認しあえるようにしたい。」</p> <p>「各々に与えられた校務分掌をしっかりと責任をもって果たしていきたい。また、そのようをお願いしたい。」</p> <p>「会議だけでなく、終礼も使いながらの提案になっているので時間短縮されているように思います。」</p> <p>「来年度から道徳が教科になったり、その他外国語にも力を入れたりするようになります。週の学習時間も増えます。行事の精選を行い、無理のないようにしていきたいです。」</p> <p>という意見があった。</p>
改善策	<p>・職員一人ひとりがそれぞれに任された分掌に責任をもって対処するのはもちろんのこと、足りないところは補い合いながら、全職員力を合わせ、学校教育目標の達成のために責任を果たすべく取り組んできたし、これからもそうありたい。また、今後も不安なく仕事ができるように、報告・連絡・相談をきちんと行いながら教育活動に取り組み、児童・保護者の要望に応えられるようにしていくことを再確認したい。さらに、来年度から授業時数が増えることは確実なので、会議の能率化、精選によって時間を有効活用できるようにする。そのためにも、会議に集中するようにしたい。</p>
3	「学習指導・生徒指導について」

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項が「A：そう思う」または「B：ややそう思う」という肯定的評価であった。 <p>「『落合小生活・学習のきまり』…道徳の授業の中で、また児童会のこびっとルールの呼びかけ、生徒指導の充実により、規範意識の向上が見てとれた。」</p> <p>「基礎学力は様々な取組によりついてきている。今後は更に学級内で意見交換を多くして、思考力や学びを深める努力をしていくべきである。」</p> <p>「家読、家庭学習の取組、漢字チャレンジなど、全校で決めて取り組んでいるものについては、全ての学年でしっかりと行なっていきたい。(カードを提出しない、チェックが甘い、達成度が悪いなどがないように…)」</p> <p>「特別な支援を要する児童は、多岐にわたり、個々に対応の異なるものであるもので、通り一編の指導では合わないこともあると思う。校内で連携し、研究を深めていく必要があると思う。」</p> <p>という意見があった。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの「学力をつける」という考えで、授業、家庭学習、家読、チャレンジテストなどに取組んできたことの成果が上がってきていることが分かる。基礎学力の向上はみられるが、児童の反省にもあるように思考力や発言などの表現力に関わる部分については、努力していかななくてはならない。また、生徒指導上の問題についても、教師側からの指導だけでなく、児童会の取組もあって、向上してきている。学習面・生活面ともこれまで同様指導を行い、反省をして次の活動に生かしていきたい。また、学習面の取組については、子どもたちにただやらせるだけではなく、教師が目標を持って、きちんと取り組ませる必要がある。 ・特別支援教育は、本校の重要課題の一つである。学習面・生活面ともにどの子にもわかるユニバーサルデザイン的なもの、個に応じた方法などを研究していく必要がある。
4 「地域との連携について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項が「A：そう思う」または「B：ややそう思う」という肯定的評価であった。 <p>「今できる活動として、学級だより、学年だより、学校HP、アンケートやPTA行事などの折のお知らせなどを利用して学校理解をしていただいている。また落合小は、校外学習の機会も多く、地域と連携した学習もさかんに行われていると感じている。今後はCS（コミュニティスクール）を意識した連携も必要になってくるだろう。」</p> <p>「手の足りない毎日であるので、もっと地域の人材を活用できたらと思う。ボランティアになるのだろうけど望みたい。」</p> <p>という意見があった。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も「学年だより」「学校だより」「学校HP」等により情報を発信するとともに、アンケートやお便り、日常の会話などから保護者や地域の感想や意見を受信し再発信し、丁寧に対応することで、信頼される学校づくりを推進する。 ・市文化財課や社協の方々の尽力により、貴重な学習や体験をさせていただいている。今後も地域の人材や施設を活用するなど、地域の教育力を生かして学びを深めていく。 ・落合すももの里応援団が様々な面で応援してくれるので、教育活動上大いに役立っている。今後もできる限り関わっていただき、学校のことを知っていただくとともに、学校側も地域のことを知るきっかけとしたい。

5 「学校の特徴について」	
達成 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項が「A：そう思う」または「B：ややそう思う」という肯定的評価であった。 ・来年度は道徳科（教科化）により、地域教材の開発など、地域の特徴を活かした教育課程の編成が大切だと思う。（教材となる地域素材は豊富にある。今後の教材づくりが課題となることやユニバーサルデザイン化した授業づくりについてはまだ課題が残っているためB評価とした。） ・ユニバーサルデザインでの心の環境づくりに努めたいと思います。 <p>という意見があった。</p>
改善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育は本校の特徴の一つである。特別支援学級においても通常学級においても、個に応じ特性に応じた指導について研修を深め、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを道徳科（特別の教科道徳）や英語科においても実践力を身につけていくとともに、学びやすい環境もつくっていく。 ・各学年の総合的な学習において地域を教材として取り上げている。今後も学年を超えて情報交換しながら地域教材を開発し、郷土を誇りに思えるような実践を行っていく。

Ⅲ 児童及び保護者へのアンケートによる評価

1 「学校生活について」(児童アンケート項目：①、⑩、⑪、⑫)

◇「①学校が楽しいか」の項目は、児童は89.7%、保護者は93%が肯定的であった。

- ・1学期の評価に比べ、若干低下している。一人ひとりの児童の話をよく聞くなどして、より良い学校生活が送れるようにする必要がある。

◇「⑩掃除活動」「⑪きまりや約束」「⑫児童会活動・学校行事」の項目は、どれも95%以上の高い肯定的な回答であった。

- ・中でも、「⑫児童会活動・学校行事」は1学期同様99.1%の児童が肯定的評価であり、児童会本部、6年生を中心とした取組の成果であり、子どもたちがやりがいを感じていることがうかがえる。

2 「授業について」(児童アンケート項目：③、⑤)

◇「③授業がわかるか」の項目について、児童は89.7%、保護者は91%が肯定的であった。

◇「⑤授業中の発言」の項目については、肯定的な回答は66%にとどまった。

- ・③、⑤とも1学期に比べ、肯定的な回答が下回っている。校内研究や授業改善の成果が上がるように更に努める必要がある。

3 「友達・教師との関わりについて」(児童アンケート項目：②、④)

◇「②仲良く遊ぶ友達」の項目は、肯定的評価が98.2%であった。

- ・全体としては、概ね良好な関係が築かれていると考えられるが、児童の行動や様子を観察し、いじめ等重大事案が生じないようにすることはもちろん、良好な関係づくりができるように適切な対応を迅速に行っていく。

- ・職員全員で情報交換を行い、気になる児童や出来事には全職員で対応していく。

◇「④困ったとき話ができる先生」の項目は、肯定的な回答が86.4%となっている。

- ・担任だけでなくすべての教職員が児童とのふれあいを大事にし、多くの目で子どもたちを見守るようにしていく。また、気づいたことはすぐに職員間で共有できるようにしていく。

4 「家庭での様子」(児童アンケート項目：⑥、⑦、⑧、⑨)

◇児童アンケート「宿題の他に家で自主勉強をしますか」は、肯定的評価は88.9%。保護者アンケート「基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身についているか」については、肯定的評価が80%であった。

- ・学力向上のための一手段として家庭学習の取組を行ってきている。児童・保護者とも1学期の評価に比べ若干低下している。学力向上を目標に、家庭学習の必要性について理解を深めながら、取組んでいきたい。

◇「地域の人にあいさつをしているか」についての肯定的評価は、児童が97.3%、保護者は84%である。保護者の評価の方がやや低いが、保護者アンケートの中には、以前に比べよくできるようになってきた、という感想もあった。今後も引き続き児童会や家庭とも連携しながら指導していきたい。

◇スマホ・携帯所持人数は、37名で全校児童の約30.8%である。そのうちルールがあるのは54%である。

- ・スマホ・携帯所持は、高学年だけでなく、中学年、低学年にも広がりつつあるので、全校児童と保護者を対象に啓発活動を行っていく必要がある。

5 「施設面について」(保護者アンケート項目：⑧)

◇「本校は、教育活動に適した施設・設備が整っていますか」についての肯定的評価は81%であった。

- ・保護者アンケートからは、より快適で充実した教育環境を望む声が聞かれた。職員の対応でできることは努力して改善していきたい。予算が絡むことについては、市当局との相談で決めていく。

IV まとめ

- 2学期は「授業中に発言や質問を言うことをする。」の肯定的評価が1学期に比べ低くなってしまった。本年度は道徳を中心に話し合い活動を取り入れてきたが、良い結果に結び付けられなかったのは残念なことである。道徳だけでなく、全ての教科で話し合い活動を重視していく。
- 教職員の自己評価・保護者アンケートともに、全体的に肯定的な評価が多い。A評価が低い項目や1学期の評価に比べ低くなっている項目もあるので、さらなる学校教育活動の充実を目指し取り組んでいきたい。
- 教職員一人一人が日頃の教育活動を見直していくとともに、それぞれの校務分掌において具体的な改善策を提案し、全職員で共通理解して取り組んでいきたい。
- 学校運営・組織面のことに関わって、報告・連絡・相談を徹底させたい。職員一人ひとりが任されたことに責任をもって当たるのは当然のことだが、学校は組織として運営されているので一人で抱え込むのではなく、職員組織全体で問題を共有し対処するようにしていく。
- この結果を資料として学校関係者評価委員会に提案し、意見聴取・交換会等を実施する

< 3学期及び次年度に向けた取組重点・具体的な改善策まとめ >

1 児童アンケート「授業中に発言や質問を言うことをしますか。」

1学期のアンケート結果からは、昨年度に比べ向上が見られたが、2学期は低くなっている。それぞれのクラスで発言しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、話し合い活動を道徳だけでなく全ての教科で充実させていく。

2 学力向上・心の教育の側面から

職員のアンケートからは、「学力向上・心の教育」両面とも向上しているという手応えを感じていることが分かる。学力面については本校で行っている学力向上への取組の成果であり、今後、朝学習の取組、チャレンジテスト、チャレンジルーム、家庭学習の取組、家読などをさらに充実させていく。そのために、職員同士が具体的にどんな取組を行っているか、情報交換などを積極的にしていくことが必要である。

心の教育については、全職員で子どもたちを見守り、報連相を通して指導にあたりるとともに、児童会の取組も生かしながら、自分たちで自分たちの問題を解決していけるようにしていく。

3 地域との連携

- ・ HP・学校だよりの充実

何を知らせるか・掲載するか 原案を作成する。

- ・ 落合すももの里応援団をはじめとする各種団体との連携。